

## 1年間の主な行事日程

2024年	4月	4日	第60回入学式
		11日	前期授業開始
	5月	18日	オープンキャンパス(第1回)
	7月	27日	オープンキャンパス(第2回)
			前期公開講座「貨幣が語るウクライナの歴史」
		31日	前期試験・補講開始
	8月	7日	夏季休業開始
	9月	19日	学園創立記念日
		24日	後期授業開始
		28日	オープンキャンパス(第3回)
	10月	13日	大学祭
		19日	後期公開講座「革新的技術(innovative technology)の市場参入 ～音の再現性に挑むオーディオ開発者T氏の事例から～」
2025年	11月	16日	学校推薦型選抜
		23日	後期公開講座「若年就業者の組織定着について」
	12月	25日	冬季休業開始
	1月	15日	後期授業再開
		30日	後期試験・補講開始
	2月	1日	一般選抜<A日程>、社会人選抜・シニア選抜、編入学者選抜
		20日	春季休業開始
	3月	3日	一般選抜<B日程>
		16日	第57回卒業式
		22日	オープンキャンパス(第4回)



### 函館大学 図書館

〒042-0955 函館市高丘町51番1号 TEL(0138)57-1181  
URL [https://www-uf01.uinfinity.jp/hakodate\\_u/](https://www-uf01.uinfinity.jp/hakodate_u/)



ぽるとさびえバックナンバー 函館大学 学術情報リポジトリ・函館大学広報誌  
URL <https://hakodate-u.repo.nii.ac.jp/>

ぽるとさびえ

2024.August Vol.37

函館大学広報誌 Vol.37 発行／函館大学図書館

2024  
AUGUST

vol. 37

PORT SAPIE  
HAKODATE UNIVERSITY  
CAMPUS PRESS

函館大学広報誌

ぽるとさびえ

特集1 卒業論文の指導体制

特集2 ラーニングセンターの役割

CAMPUS info・KANDAI act.など





かつて函館の桜の見ごろはゴールデンウィークでしたが、最近では気候変動の影響なのか、1～2週間早まっています。今年はアニメ映画「名探偵コナン」の効果もあり、多くの観光客は大型連休の前から函館を訪れて、コロナ前を上回る観光客入込になりました。国全体の訪日外国人観光客数も過去最高を記録しており、円安を追い風にしながら、東南アジア諸国の経済発展とともに、今後もさらに伸びていくものとみられます。

これだけ人気のある観光地である函館ですので、「函館大学で観光学部を作らないのか」という声をいただくこともあります。観光学とは何を学ぶのか、少し考えてみましょう。

学校法人野又学園では以前、札幌市と函館市の専門学校で「観光学科」「ホテル・トラベル科」を設置していました。これらの学校では、旅行代理店が必要とする旅行業務取扱管理者資格の勉強や、ホテル業務の実習がありました。いわゆる【専門人材育成】と言えます。

日本にはあまり成功例がないのですが、【高度な専門人材育成】で世界的に有名なのはコーネル大学ホテル経営学部です。Hotel Managementという専門性の高い学問領域で、星野リゾートの社長が同大学院で学んだこともよく知られています。

一方で、旅行代理店やホテルの専門人材を養成するのではなく、【地域で活躍する多様な人材育成】で知られる大学もあります。日本初の観光学部は立教大学ですが、基本的な考え方は観光という現象を人文・社会科学という既存の学問体系で分析対象とするものと言えるでしょう。

また、国立大学で初めて観光学部を設置したのは和歌山大学です。観光について実践的に学ぶことは、【地域について学ぶ】ことでもあるため、結果、進路と

して地方自治体に入職する学生も少なくありません。

観光庁は、ホテルなどの実務者や経営者である「観光産業人材」だけでなく、観光地全体の経営、地域づくりを担う「観光地経営人材」が必要であるとしています。同庁資料の説明では「宿泊、飲食、旅行会社、交通、物販、農林水産、文化、IT、金融等の地域内の事業者や、さらには地域住民や他の地域の事業者、個人など、多様な関係者（ステークホルダー）との協働的関係を築き、それらのサポートを得て滞在価値を高め、地域の稼ぐ力を引き出しながら、観光を通じた持続可能な地域づくりを牽引できる人材」となっており、地方自治体やDMO（観光マネジメント組織）の職員を想起させますが、多様な関係者の中から観光地経営人材が登場することも期待されています。そこには、観光業界以外で働いている人も含まれるのです。

このような背景もあり、今年度から函館大学では「地域観光論」「地域観光演習」という授業を新設しました。観光地経営人材には、観光産業の専門教育というよりは「地域に対する誇りと愛着」「アントレプレナーシップ」「信頼関係を構築」「利害や意見を調整」といった主体性やコミュニケーション能力が求められています。これらは実践的な取り組みを通じて涵養されるものですので、本学の授業でも、函館市にとどまらない広域のフィールドワークを授業内で行います。

例年、本学で学んだ学生のうち観光産業に就職するのは数人です。しかし、どのような仕事に就いたとしても、一人ひとりが地域の観光地経営人材となる資質をもって、地域の発展に貢献してくれることを期待しています。函館大学は、新たな時代の要請に応える新たな学びを提供できるよう、これからも努力してまいります。

## 今年度新設した授業を通して 観光地経営人材を育成して地域貢献を



学 長  
野 又 淳 司

## CONTENTS

●学長メッセージ(学長 野又 淳司).....	1
●特集1 卒業論文の指導体制.....	3
●特集2 ラーニングセンターの役割.....	7
●CAMPUS info	
オープンキャンパス.....	9
新任教員紹介.....	10

●KANDAI act.	
硬式野球部.....	11
軟式庭球部.....	12
●輝くセンパイ.....	13
●令和6年度 公開講座.....	13
●授業ピックアップ	
「政治学」 鈴木 知花 准教授.....	14



特集1

# 卒業論文の 指導体制

教務部長・図書館長  
寺田 隆至 教授

大学4年間の集大成となる「卒業論文」。  
近年、学修活動と学修成果が広がりを見せる中、  
函館大学では昨年度、卒業論文作成のための  
独立した選択科目「卒業論文」を設置しました。  
この科目を通し、指導教員が学生たちに寄り添い、  
卒業論文完成に向けてバックアップしています。

## 学修の集大成となる卒業論文

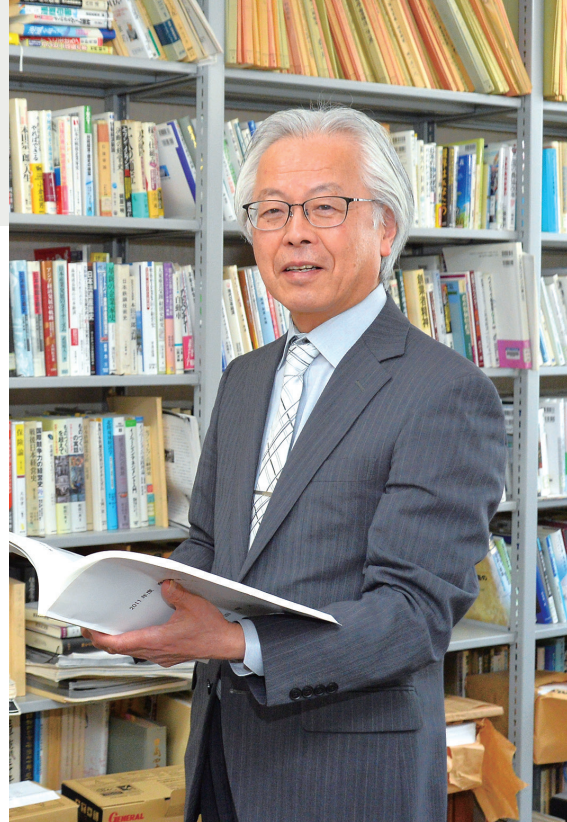
本学では開学以来、卒業論文(以下、卒論)を大学における学修の集大成としての成果物(ラーニングアウトカム)と考えてきました。その理由は、卒論には本学が「学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)」で、学生に修得を求める資質と能力として示した「知識」(豊かな教養・倫理観と商学の専門知識)、「技能」(地域社会や諸外国とのコミュニケーション経験と高度な自己表現)、「態度」(答えのない問題に取り組む真理を追究する批判的思考と他者を尊重し意思疎通に努力する姿勢)の水準が総合的に示されるからなのです。

## 学修活動の広がりに対応して新設した選択科目

本学では令和4年度まで、卒論の作成を専門ゼミナールⅡの単位取得要件としてきました。しかし、近年では卒論以外にも大学での集大成となるような学修成果を生み出す活動がいくつもあります。その一例が学外の様々な研究発表会(はこだてアカデミックリンク、日銀グランプリ、北海道学生研究会SCANなど)への参加活動です。そこで作成したプレゼン資料や小論文は高く評価できる学修成果であり、それらで優秀な成績をあげる本学の学生は着実に増えてきています。そこで本学では、専門ゼミナールⅡでの学修活動と学修成果の広がりに対応するため、昨年度から卒論作成を専門ゼミナールⅡの単位取得要件から外すと同時に、卒論作成を行う独立した選択科目「卒業論文」の設置を実行しました。

### ◆令和5年度卒業論文タイトル一覧◆

- ◆ シニア(高齢者)のSNSの利用動機と購買行動の変化
- ◆ 地域密着型コンビニエンス・ストア セイコーマートの戦略と特徴
- ◆ 新入社員の離職率低下に向けての考察
- ◆ 函館市の就労継続支援B型事業所における工賃向上について
- ◆ 授業における学習の動機付けについての研究
- ◆ 函館市における町内会の今後のあり方についての考察
- ◆ 侮辱罪厳罰化とネット利用意識の変化について
- ◆ フードロス防止×投資の可能性～我々が投資すべきはどの企業か、フードロスに焦点を当てて考える～
- ◆ 広告の費用対効果に関する調査～企業と消費者のミスマッチに着目して～
- ◆ 年収と幸福度の関係について
- ◆ MaaSと新しいコンビニサービスの可能性について
- ◆ サウナの持続可能な考察～経験価値消費論を利用した戦略分析の方法論～
- ◆ 日本の過労死等の現状と予防策の提案
- ◆ アークランズ株式会社と株式会社エンチャーの財務状況に関する比較分析
- ◆ データから考える江戸時代の大名
- ◆ 現代のSNS広告と経済効果について



## 高い質が求められる卒論の完成を目指して

選択科目「卒業論文」の設置目的は、卒論の質的な向上を図るためです。また、専門ゼミナールⅡの様々な学修成果の底上げにつながることも期待しています。この科目では「卒業論文の評価基準」を予め示し、その上でクラス合同での卒論の中間発表、さらには指導教員と卒論評価ワーキンググループ(学長と教授で構成)への最終口頭発表を行うことを必須としています。各卒論に対して「研究の独創性はあるか」、「専門用語やデータは適切に使用されているか」などの評価基準を満たす高い質が求められ、最終的に提出された卒論の中から、最も優れた卒論を表彰しています。

## 社会へ出て役立つ経験と能力を得る

本学ではレポートや論文の作成ツールとして、生成AIの使用を禁じていません。しかし、生成AIを使用した論文はあくまでも「材料」にすぎず、基本的なファクト(事実やデータ)と論理的整合性を確認しつつ、自分なりの考察を加えなければ、独創性のある優れた論文にはなりません。卒論を作成した経験、そこで得た能力は、現実社会の諸問題の解決に活かされることでしょう。学生たちには選択科目「卒業論文」を履修し合格して、自信を持って社会へ出ていってほしいと願っています。

# 卒業論文を完成させた 先輩たちからの声

## 苦労があったからこそ 完成させたことが喜びと自信に

私が「授業における学習の動機付けについての研究」をテーマに卒業論文を執筆したのは、次の2つの背景からでした。1つは、私は教員(中学校社会科)を目指していること。2つ目は知的好奇心です。「学習の動機付け」とは、端的に述べると目標の達成に向かって学習行動や学習に関わる認知などの働きを開始し、方向付けや維持を行う心理プロセスのことを言います。これまでの私の勉強に対する姿勢などを振り返った時、現在の児童・生徒・学生はどのような気持ちで学習に向かっているのかを知りたいと思いました。小学校・中学校・高校の児童・生徒と教員、大学の学生合わせて計600名を超える質問紙のデータを扱う中で、傾向や違いを見い出すのは大変な作業であり、今だから言えますが、データ分析では2回ほどほぼ徹夜で取り組みました。また、質問紙の作成では指導教員の花田教授、調査に協力いただいた各校の校長先生方にお世話になり、その時の感謝の気持ちは今も忘れていません。特に花田教授には、現場での実務経験を踏まえた様々な視点からの助言をいただくなど、手厚くサポートしていただきました。リラックスして臨めた卒論の発表では質問紙調査について高評価をいただき、大きな自信になりました。現在は教員を目指して教職大学院で学んでおり、大学の時の研究の延長線上でテーマをさらに焦点化した、より深い研究に取り組んでいます。卒論執筆の経験と得た自信を胸に、教員となったら生徒の学習に関しての捉え方や取り組む姿勢に対し、様々な学習活動や教材を用いた学習環境づくりに取り組みたいと思っています。



北海道教育大学教職大学院1年

岡村 ヒカル さん

商学部商学科市場創造コース卒(市立函館高等学校出身)



株式会社北海道日立 勤務

中川 滉生 さん

商学部商学科市場創造コース卒(北海道函館商業高等学校出身)

## 発表までに入念な準備を行い 優秀卒業論文賞で喜びいっぱい

私の卒業論文のテーマは「シニア(高齢者)のSNSの利用動機と購買行動の変化」でした。近年はスマートフォンが普及し、SNSのユーザー数も増加し続けている中、総務省統計局によると、若い世帯よりも高齢者の世帯が消費支出額は多いという結果が出ていたのです。そこに興味を抱いたとともに、SNSマーケティングが注目されると考え、購買意欲の高いシニア(高齢者)層を対象にして、オンラインとオフラインの環境におけるSNSの利用動機と購買行動を見出すことを目的とした研究を行いました。テーマが広すぎたことから、課題を絞り込む過程でテーマの再検討を何度も行い、自分の興味や専門性に合致したテーマを見つけるまでには時間がかかりました。そんな中、指導教員は私のアイデアを丁寧に聞いてくれて、適切な方向性を示してくれるなど、とても熱心にサポートしてくれたのです。発表に向けては毎日卒論を読み、内容の整理、要点の明確化、質問の想定などを重ね、悔いが残らないよう準備に取り組み、無事に発表を終えた時は達成感とともに指導教員や友人、家族など、支えてくれた人たちへの感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私が発表した論文は優秀卒業論文賞に選ばれたのですが、知らせを受けた時はまず驚きがあり、評価されたという結果に対して喜びにあふれました。課題の把握から情報収集、データ分析まで一連のプロセスを経験できた卒論で得たスキルは、今後社会人としての人生を歩んでいく中で、ビジネス課題の解決や市場分析など、様々な場面で生きてくると思います。

## 選択科目「卒業論文」の年間スケジュール





## 卒業論文の執筆を 指導した教員たち

# MESSAGE

### 論理的思考や 調査研究能力などを高めて 社会で活躍してほしい

卒業論文の授業はテーマを決めるところからスタートし、文献や取材先などを選定後、一つの道筋を指導教員と学生がお互いにコミュニケーションをとりながら、最終的な仕上げのイメージを明らかにしていきます。テーマについては、決める段階で最低限の学修をしていなければ先へ進むことはできません。思いつきだけで決めてしまうとテクニカルな問題や知識不足が表れてしまい、途中で挫折してしまうことが多いからです。そして後期では集めたデータや情報を整理し、よりストーリーを鮮明にしていくわけですが、そこで不具合が生じてしまった時にフォローを入れながら、思っていた形へと導く手伝いをすることが指導教員の仕事と思



田中 浩司 教授

い、指導に当たりました。また、一年という長い期間をかけて終着点へと向かうわけですから、ある程度のペースメイキングをしてあげることも重要と考えています。場合によっては一緒に文献を探したり、私の専門分野以外のことは「専門の先生に指導を受けましょう」とアドバイスを送ったりもしました。私の能力には限りがありますから(笑)。社会へ出たら、プラン設計の中で課題設定をし、そして解決方法を見つけていくという思考は、どんな職業に就いても求められます。卒論に取り組んだ学生にとって、この科目を通して得られた経験は必ず大きな力になると信じています。卒論は大学の研究・教育の集大成です。多くの学生に履修してもらい、本学で論理的な思考、調査研究能力、コミュニケーション力を高めて社会で活躍する人材になってほしいと思っています。

### 卒業論文の執筆をきっかけに 論理を考える

昨年度の卒業論文では最初8名の学生を受け持ち、最終的に最終口頭発表までに至ったのは2名。しかし、これが学問の面白いところだと思います。私自身も研究の中で自分の想定と違う結果が出るところに面白さを感じるところがあるのですが、それを上手く伝えきれず、最後までやり遂げられなかった学生がいたことは反省点でした。私のゼミでは昨年度は金融をテーマに、今年度は北大水産学部と共同でマスノスケ(キングサーモン)と函館の真昆布の完全養殖を目指すプロジェクトを考えています。その勉強をした上で、それに関連した卒論の作成に取り組んでいます。指導教員として、学生が持つ問題意識を大事にしたいと



安木 新一郎 教授

思っています。彼らが3年生、4年生の2年間をかけて自分で問題を導き出し、それをどのように解くかチャレンジしてほしいため、私から「これについて考えましょう」とは言いません。現代の大学生はインターネット等で情報を収集することが得意な世代。4年生になると情報を並べるだけでなく、分析までは難しいが分類はできるようになります。その中で、きちんとした論理、叙述の方法などを身につけられた学生を見てきました。成長を頼もしく感じるとともに、私の知らないこともたくさんあり、私自身の勉強にもなっています。卒論に取り組む中で、学生には論理展開を大切にしてほしいと願っています。1年かけてじっくり考え、文章を書く経験は、人生の中で最初で最後かもしれませんし、これは大学でしかできないことです。大学生生活の振り返りにもなりますから、多くの学生にトライしてもらいたいです。

### やり遂げた自信と経験は これからの人生の支えになる

卒業論文という科目においての指導教員の役割としては、学生がどのような思いや目的を持って取り組もうとしているのかをしっかりと聞き、その上で何をどのようにやっていくのかを一緒に考えて進めていくことが重要だと考えています。昨年度、私が受け持った学生は「授業における学習の動機付けについての研究」をテーマにし、学習の意欲とはどう高めたら良いのかという研究をしました。そこで学生と一緒に大学生だけでなく、小・中・高を訪れてアンケートの協力をお願いしたのですが、協力をしてくれた学校さんも「是非、結果も知りたい」と興味を持って受け入れていただき、学生に様々なアドバイスもしてくれました。



花田 譲 教授

学生への指導では最終的な着地点に向け、もしも途中でブレが生じてきた時には、うまく軌道修正させられるよう、導いてあげることも指導教員の大きな役割のひとつです。また、学生にとって自分の考えをまとめ、文章化して目に見える形にする卒論に取り組んだ時間は、満足感や充実感を得られた大事な時間であったと思います。このような時間は、社会へ出てからも経験できることはそうはありません。そして、卒論の執筆をやり遂げた経験、芽生えた自信は、今後の人生の支えになってくれるはずです。自分が「何をやりたいのか」をしっかりと持つためには、いつも良い意味で疑問を持たなければなりません。そして、高校生あるいは大学1年生のうちから、それを意識して自分がやりたいテーマを見つけ、是非卒論に挑んでもらいたいと思っています。

### 問題意識や疑問を持つことから 始まる選択科目の卒業論文

卒業論文は単位を出す科目です。そのため、アカデミックな領域であることが分かるように勉強しなければなりません。これをしっかりと学生が理解できるように伝えるのは、指導教員の立場として難しかったところであり、同じことを何度でも伝えるという覚悟を持って指導に当たっていました。その中で、問題意識の目覚め、疑問を持つ、などに学生が気づくことができるよう、どのように導いていくかを常に考えて接していました。また、インターネットや本などに出ていることは、どこかで誰かがやっていることであり、オリジナルではありません。とは言え、そういったところにもない発見をするのは、私たちでも難しいことです。そこで、AとBを合わせたら本人がイメージしたテーマに合うということに気づけるようなアプローチの仕方などを工夫していました。そうした指導のもと、学生から「こんなに本を読んだのは初め

佐藤 浩史 准教授

て。とてもためになりました」「もっと早くからやっておけばよかったです」「勉強は大事だと改めて気付かされました」などの声を聞けたことは、指導教員として嬉しく思います。卒論は学生自身が主体的に自立も含めて勉強をしていく科目です。しっかりと向き合って取り組み、そのことを自分の人生で自負してほしいと思います。さらに言えば、将来、自分が親となった時に、この経験の大切さを子どもに話せるように今を頑張してほしいと思います。問題意識とはステレオタイプに問題をコピペするだけでなく、「何がどうなっているのか」ということを一度、自分でしっかりと掘ってみることが大切なのです。何事にも無関心であることは、そのまま機械のように受け入れて、「他の人がどうにかするでしょう」という思考になってしまいます。そうならないためにも、この科目を通して問題意識を自分のものとする作業を一度してください。



# ラーニングセンターの役割

函館大学は学生のチャレンジを親身になってサポートしている大学です。そのサポートを強化する目的で開設されたのが「ラーニングセンター」。センター長と教育助手2名が在籍し、アクティブ・ラーニングや資格取得に関する教育支援など、学生への様々なサポートを展開しています。



## ラーニングセンター開設の目的とは？

**高橋**：地域が抱える諸問題について、大学・自治体・地域(企業、市民など)が共有しながら活動を行うことを目的に、2015年に本学内に設置されたのが地域連携センターです。現在の業務の大きな役割は、『地域と大学をつなぐ窓口的な役割』『研究・研究会関連の事務局』『教員・学生の調査・研究の活動サポート』『学生への教育支援(ラーニングセンター)』の4つです。そしてこれまで地域連携センターでは、アクティブ・ラーニング科目やゼミ活動、学生の調査・研究などの支援を行ってきましたが、英語や簿記などの資格取得や、学修のつまづきを解消するリメディアルなどを目的とした学修支援は、学内の教職員などが個別に担当してサポートしていました。しかしながら、その体制では全体の把握やサポートの設計が難しい現状があったため、学生個々の学修の進捗や成長に合わせた的確な支援をしていくことを目的として、2023年7月に設置したのがラーニングセンターです。



地域連携センター長・専任講師  
高橋 和将さん

## ラーニングセンターの体制、役割、主な業務内容とは？

**高橋**：ラーニングセンターには私と教育助手2名が在籍し、主に『アクティブ・ラーニング・調査・研究(商学実習、ゼミなど)』『簿記、TOEIC、英検などの資格取得』『リメディアル教育』『卒業要件』などに関する教育支援に加え、各種教育支援の進捗・成果の取りまとめ及び学内へのフィードバックなどを行っています。

〈函館大学ラーニングセンター〉  
時間：月曜日から金曜日 9:30～17:00  
Email: renkei@hakodate-u.ac.jp  
担当：檜山、八重樫

**八重樫**：教育助手である私たちは、資格取得に向けて直接的なサポートを行っています。リメディアル教育対象の学生に対しては、専門の先生方への橋渡しの役割も担っています。  
**檜山**：八重樫さんは英語関係を担当し、私は英語関係に加えて簿記関係を担当。授業を行うほか、春期・夏期講座なども実施してサポートしています。  
**八重樫**：集团の中では、聞こえてこない声というものがあると思います。そこで私は、ここへ来た学生が話しやすい、質問しやすい環境づくりを大切にしています。



教育助手  
八重樫 淑恵さん

**檜山**：私は学生たちと関わっていく中で、大切にしていることが2つあります。1つ目は、大学という学びの場において、学生のニーズに応えるとともに、彼らの可能性を伸ばせる設計に取り組むこと。2つ目は少しでも学修意欲を高められるようにしたいという理念を持ち、学生たちと接しています。  
**八重樫**：資格の取得に向けたサポートだけでなく、資格を取得した後の次のステップに対してのアドバイスや指導ができる教育助手を目指しています。

## 利活用の実態、学生たちの反応は？

**高橋**：ラーニングセンターは、自主学修をするための場所として学生が活用しています。具体的にはTOEIC BridgeやTOEIC L&Rで高得点を取りたい、実用英語検定試験や日商簿記試験に合格したい、などの学生が学修計画を考えたり、実際に学修する場として利用しています。

**八重樫**：他にも、授業の課題やレポート作成に取り組んでいる学生もいます。

**檜山**：さらには仲の良い友達同士で、学期末のテスト勉強に取り組んでいる学生の姿も目にします。数々の取り組みを行う中で、昨年度は約1,500名の学生の利用がありました。勉強に対する意欲が向上した、資格取得に向けて自主学修をするようになった、などの声があり、一定の成果があったと手応えを感じています。

**八重樫**：夏期講座や春期講座にもたくさんの学生が来てくれましたし、講座をきっかけに個別でここへ来るようになった学生も多いです。

**高橋**：檜山さん、八重樫さんのふたりの話に連動しますが、ここでは目標の点数を超えたい、あるいは資格取得に向けた勉強方法が分からないなどの学生の相談に乗ったり、必要であれば個別指導を行うこともあります。また、ひとりでは継続することが難しい学



教育助手  
檜山 公貴さん



簿記3級講座

個別指導

生に対しては、グループ学修の機会も設けています。

**檜山・八重樫**：ここを頼ってきて一緒に勉強し、学生が目標をクリアできた時はすごく嬉しいですし、私たちのモチベーションにもつながっています。

**高橋**：今年度からは留学や国際交流関係事業も担当することになりました。海外に目を向ける学生の数も増やしていきたいと思っています。

## ラーニングセンターの今後の展開やビジョン

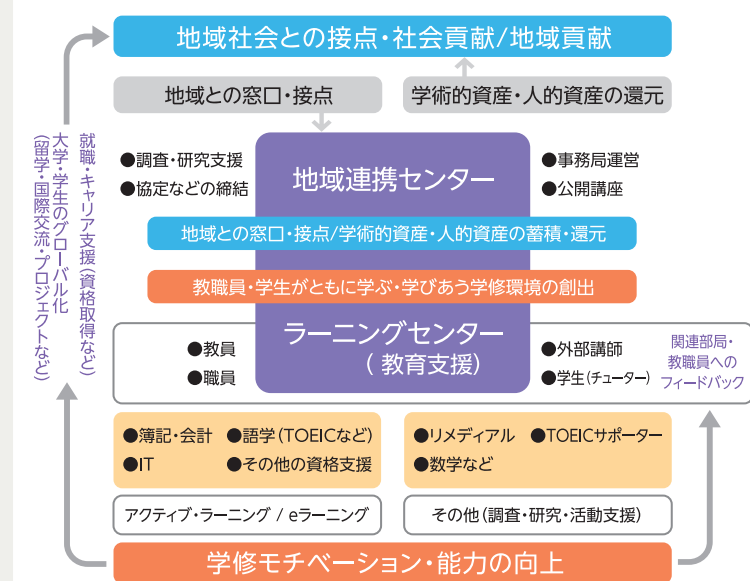
**高橋**：学生のニーズや現状だけでなく、今後を見越して私たち教職員も自身の資格取得や能力向上に取り組み、自分自身をさらにアップデートしていくことが重要だと感じています。そして、社会全体のグローバル化やテック化が進んでいる中、今後、ラーニングセンターでは社会で必要とされる資質や資格などを見極めて支援できる体制を作り、学生に提供していけたらと考えています。

**檜山**：とにかく学生たちには自分の可能性を自分で制限せず、センターをうまく活用してもらいたいと思っています。将来に向けての就職活動であったり、ここでの勉強を自分の人生を豊かにすることにつなげていってほしいです。

**八重樫**：私からは、学生時代に取れる資格を全部取って、そして社会へ出て行ってほしいと言いたいです。最近は学び直しなどが話題になっていますが、社会人になってから資格取得に向けた時間のマネジメントは本当に大変です。だからこそ、学校の制度などをうまく活用して、今興味があること、今取れるものを全部取って社会に出てほしいと思っています。

**高橋**：学生の皆さんには、ここで“学ぼうとする力”を養ってほしいと思っていますので、是非、センターに足を運んでみてください。ラーニングセンターの大きなミッションは、大学全体の学修モチベーションや学生の能力・資質の向上です。まだまだスタートしたばかりではありますが、“教職員・学生がともに学ぶ・学び合う学修環境を創る”をスローガンとして、これからも様々な取り組みを進めていきたいと思っています。

### ■令和6年地域連携センター ラーニングセンター運用イメージ



### ■令和6年度ラーニングセンター講座実施計画

英 語		日商簿記	
通年(5月～3月)	5月TOEIC Bridge (1学年必須) 7月TOEIC Bridge (上級生) TB80点講座 TB40点講座 (全学年対象)6日間程度 CBT受験	前 期 7月頃CBT試験 (1学年希望者) 夏 季 休 業 日商簿記3級相当試験対策講座 (1～2学年対象)7日間程度 日商簿記3級試験合格講座 (全学年対象)3日間程度	通年(5月～3月) 日商簿記3級試験合格講座(2～4学年対象)週1コマ
週1コマ ※個別対応可	12月TOEIC L&R (2学年必須) 1月TOEIC Bridge (1学年必須) TB80点講座 TB40点講座 (全学年対象)6日間程度 CBT受験	後 期 12月TOEIC L&R (2学年必須) 1月TOEIC Bridge (1学年必須) 春 季 休 業 日商簿記3級相当試験対策講座 (1～2学年対象)7日間程度 日商簿記3級試験合格講座 (全学年対象)3日間程度 2 月 上 旬 CBT試験 (1学年必須2～4学年希望者)	



## キャンパス案内

将来の夢や目標に向かって  
活動する学生たちの  
充実したキャンパスライフを  
ちょっとご紹介しましょう。



# 2024 オープンキャンパス

## 学生スタッフで作り上げるオープンキャンパス

函館大学は全国の大学でも珍しい「学生スタッフがオープンキャンパスの企画や運営を実施している」大学であり、全国版の刊行物にも取り上げられました。イベントの内容は無料ランチ体験に始まり、大学概要や入学者選抜要項の説明、大学の主要施設を巡るキャンパスツアー、ミニ講義体験、そして学生スタッフと大学生活について話ができるおしゃべりタイムを用意しております。これら全ての案内は学生スタッフが務めており、高校生のみなさんのその眼で「函館大学とはどういう大学なのか」見て感じていただきます。

また、毎回実施している参加者へのアンケート結果を参考に、企画の効果測定を学生会議で実施し、PDCAサイクルに沿ってオープンキャンパスをブラッシュアップしております。そのため参加者からの高い評価をいただいております、進路決定の一助として役立っているという自信があります。さらに、当日同伴される保護者のみなさまには、別途職員から学び・費用・生活などについて説明を行います。オープンキャンパスに都合がつかない場合は、個別に大学見学・概要説明などフレキシブルに対応可能となっておりますので、お気軽にお問い合わせください。

## オープンキャンパス=未来の自分がイメージできる場所

オープンキャンパスでみなさんをご案内するのは、函館大学の学生スタッフ。数年前までは高校生だった彼ら。函館大学で商学のスキルを身に付けたその背中には、まるで自分自身が成長した姿として良いモデルになるでしょう。そのような学生が企画・運営する、函館大学オープンキャンパスの内容をご紹介します。

### イベント例

11:30

#### ランチ体験(希望者のみ)

函館大学の学食でランチ。目玉メニューは温玉からあげ丼で、学生からの絶大な支持を得ています。

12:45

#### 概要説明・入学者選抜要項説明

学生による概要説明は知りたいことが知れるチャンス。入学者選抜要項では詳しいシステマが丸わかり。

14:00

#### キャンパスツアー

大学構内を巡り、様々な施設・設備について説明いたします。

14:40

#### ミニ講義体験

商学を学ぶ学生たちが実際に日々受けている授業について、オープンキャンパス特別仕様で体験していただけます。

15:00

#### おしゃべりタイム

コースやテーマに沿って学生と高校生のみなさんで交流できる時間です。気軽に気になっているポイントを質問できるため、大人気のコーナーとなっております。

### 【オープンキャンパス2024 開催日時】

**2024年5/18(土)、7/27(土)、9/28(土)、  
2025年3/22(土)の全4回。**〈各日12:45～16:00〉

函館駅発着の無料送迎バスや、遠方からの参加者のための交通費補助も完備。

#### お申込み・お問合せ

学校法人野又学園 函館大学 函館市高丘町51-1  
フリーダイヤル 0120-00-1172  
函館大学ホームページ (<https://www.hakodate-u.ac.jp/>)

申し込みフォーム



## 新任教員紹介

今年度から函館大学の教壇に立つ教員のみなさん。  
これから多くの学生たちと新たなふれあいが生まれます。

試行錯誤を  
繰り返して  
学生目線の講義を

高橋 真教授  
Makoto Takahashi

今年度は「経営戦略論」「国際経営論」「経営史Ⅰ・Ⅱ」「商学実習Ⅰ」を担当。研究の専門は「管理論」ですが、研究と講義は料理に近いのかもしれませんが、レストラン(講義)に来られる客(学生)に美味しいと思ってもらえるよう、調理の試行錯誤があってもいいと考えます。著者として幻戯書房から「デビュタント・ワルツ」というミステリーを出版したので、興味のある方はぜひ読んでみてください。

本学の強みを活かし  
有為な人材を  
輩出させたい

藤中 敏弘教授  
Toshihiro Fujinaka

法律学の中の租税法を研究しています。専任の大学教員としては3校目となる函館大学では、会社法、商法、知財法等の法律関連科目を教えており、地域に根ざした本学の強みを活かして有為な人材を輩出させていきたいと思っています。大学教育は、教員と学生が一つのテーマに対し問いを投げかけ、共同でその解答を目指します。学生には「自ら何かを掴もう」という気持ちで講義やゼミに臨んでほしいと願っています。

学生たちと一緒に  
日商簿記全国大会に  
出場したい

島田 信子 専任講師  
Nobuko Shimada

尊敬する先生はヘレンケラーの家庭教師だった「サリバン先生」。学ぶ人の能力を信じ、寄り添いながら二人三脚で高みを目指すことが私の教育の理想です。また、「社会人入試」や「開かれた大学」に強い関心があります。本学では「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」「教養ゼミナール」「商学実習Ⅰ・Ⅱ」「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」を担当。今後は簿記が得意な学生たちと一緒に、日商簿記全国大会の「日商簿記-1グランプリ」に出場してみたいです。

可能性を引き出す、  
高める、気づく  
手助けをしたい

参川 城穂 専任講師  
Kunio Mikawa

「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」「金融論Ⅰ・Ⅱ」「専門ゼミナールⅠ」「商学実習Ⅰ・Ⅱ」の科目を担当しています。学問の専門は国際経済に分類される領域です。国際通貨基金などの戦後国際通貨制度の変遷や通貨に関する理論的な研究のほか、最近は暗号資産の研究も行っています。講義では、可能な限り双方向的な講義になるよう心がけ、学生たちの可能性を引き出す、高める、あるいは気づく手助けをすることを目指します。





小林 空雅さん  
商学部商学科市場創造コース4年  
(秋田県立大館国際情報学院高等学校出身)



「このチームで全国を目指し、本気で野球をすることが出来てよかった」と話す小林さん。



今しかできないこと、  
好きなことに全力で取り組む  
大学のクラブ活動  
大切な仲間とともに、部員たちは  
目標に向かって走り続けます

KAN

## 硬式野球部

函館大学硬式野球部HP  
<https://kandai-bbc.jimdofree.com>



久米 音弥さん  
商学部商学科市場創造コース4年  
(横浜創学館高等学校出身)

# BASEBALL

## 仲間を信頼して 目指せ全国大会出場

部員が主体的に練習メニューを考え、選手、監督、コーチが一丸となって全国大会出場を目標に日々の練習に取り組んでいる函大硬式野球部。「キャプテンを任されてからは、どうしたら全国へ行けるチームになれるのかを考え、監督、コーチからアドバイスをもらいながら、選手同士でも話し合うようにしています」と話すキャプテンの久米音弥さんは、チームのことを第一に考えています。そんなキャプテンをサポートしているのが、小・中・高でキャプテンを経験してきた副キャプテンの小林空雅さんです。「今、守備ではセカンドを任されています。キャプテンからは『守備のことは頼む』と言われているので、内野手のメンバーを引っ張る気持ちを常に持っています」と、頼れる存在です。

今年はキャッチャーとして投手陣を支える久米さんは、長打力が自慢の選手です。「打撃面だけでなく、キャッチャーは全体を見渡せなければなりませんので、広い視野と冷静な判断を心がけています」。一方、小林さんは足と守備に自信あり。攻撃では得点機を演出したり、守備では味方のピンチを救います。また、『執念』という言葉大切にしているそうで、「諦めない気持ちなどを、言葉や行動で示すように心がけています」と話します。小林さんに対し、「守備が上手く、空雅のところへ打球が飛ぶと安心して見ていられます」と信頼を置く久米さん。それを聞いた小林さんは、「音弥は自分の中にしっかりとした芯を持ち、周りからも信頼されています。そして、ここぞという場面ですっかりランナーをホームに返してくれます」と返していました。

全国から選手が集まり、野球に集中できる環境がある函大硬式野球部は、毎年、北海道六大学野球のリーグ戦で優勝争いをしているチームですが、高校時代はレギュラーになれなかった人も、ここでパフォーマンスを上げてチャンスを掴んだ選手もたくさんいますので、皆さんも先輩たちと一緒に全国を目指しませんか。



「キャプテンを任されてからは、『これは俺のチームだ』と思い、できることをしっかりやろうと思うようになりました」と話す久米さん。

DAI  
act.



## 軟式庭球部

大久保 爽太さん  
商学部商学科企業経営コース2年  
(新潟県立巻高等学校出身)

## 北海道制覇へ向け 自主的に伸び伸び練習

函大軟式庭球部は、自分の思いや考えを中心として、自主的に活動しているクラブです。部員たちは今年の秋に開催されるインカレ(全国大会)への切符を獲得し、日々の練習にも熱がこもっています。春季北海道学生ソフトテニス大会において、ともに個人戦でベスト16に進出した原颯哉さんと大久保爽太さんは、「練習の成果を発揮して勝利を掴みたい」と意気込んでいます。そんなふたりは「大会では部員たちが一丸となって声を出したり、一緒に頑張っていくという空気感が楽しいと感じています。そんな雰囲気の中、伸び伸びとしたプレーができています」と声を揃えます。

原さん、大久保さんのポジションは同じ前衛です。原さんは打ち込むボールの速さで勝負していくスタイルで、「パワープレーで押していくと言いますか、相手をねじ伏せるスタイルが自分のプレーのアピールポイントでしょうか」と話します。そして大久保さんは、簡単にボールを通させない前衛を目指しているとのこと。「自分の武器はボレーです。後衛の選手を助けられる前衛を目指しています」と、後衛の選手にとってはとても頼もしい一言を発してくれました。

ポジションは前衛のため、ふたりがベアを組むことはありませんが、次の言葉から互いを認め合う先輩・後輩といった様子が窺い知れます。原さんいわく、「爽太はとても向上心がある選手。何があっても決して下を向かず、次はこうしようという前向きな姿で練習に取り組んでいます」と、メンタルの強さに感心していました。それを聞いた大久保さんは、「原さんは前衛のドンです(笑)。前衛のみんなのクセや調子などを見て、よくアドバイスをしてくれます」と、観察眼の鋭さや面倒見の良さに感謝しているよう。そんな先輩方がいる函大軟式庭球部は、「自分の力を試したい、伸ばしたい」と思っている人にはピッタリのクラブです。これからも部員みんなが共に切磋琢磨しながら、北海道制覇を目指して活動を続けていきます。



「大会では他校の試合運びも見て、自分たちに何が足りないかを考えて次につなげていくようにしています」と話す原さん。



原 颯哉さん  
商学部商学科企業経営コース3年  
(北海道科学大学高等学校出身)



「高校最後の夏は全国へ行くことができて、本当に悔しい思いをしたので、大学では全国でも勝てる選手を目指して頑張っていきたい」と話す大久保さん。



# 輝くゼンパイ

## 小さな夢を持ち続け モチベーションを上げる



株式会社セコマ 勤務  
**北條 真衣** さん  
商学部商学科市場創造コース卒  
(北海道函館商業高等学校出身)

セコマはコンビニエンスストアとして日常のインフラ、災害時には非常時のインフラとして北海道を中心に皆様の生活を支えています。私自身も2018年の北海道胆振東部地震で被災した際、セイコーマートが生活の支えとなりました。そのような経験もあり、「そんな素敵な会社の一員として働きたい」と思い、今年春に入社。現在は4ヶ月研修に奮闘中です。この研修期間に実際の店舗で働く機会をいただいたのですが、お客様あつての会社であるのに、会社や従業員目線に偏った考え方をしてしまったことを反省し、お客様に感謝の気持ちを伝えられる接客を心がけたいと思うようになりました。第一印象はその後の関係性に影響を与えますから、今はとにかく、はっきりとした声と姿勢、笑顔を意識したあいさつができるよう心がけています。社会人一年目の目標は、先輩から仕事を任せてもらえる新入社員になること。そして大きな目標は「私はセコマの社員です」と胸を張って言えるようになることです。函館大学は挑戦する機会をたくさん与えてくれます。皆さんも小さくてもいいから夢を持ってください。就職はゴールではありません。小さな夢を持ち続けることは、仕事のモチベーションになってくれることでしょう。

本学を卒業し、新社会人として  
次のステージで躍動する先輩たち。  
目標や夢に向かって前へ進んでいます。

## 後悔をしないよう やりたいことに挑戦を



八峰町役場 勤務  
**湊 幸進** さん  
商学部商学科市場創造コース卒  
(秋田県立秋田南高等学校出身)

私は地元秋田県の八峰町役場福祉保健課で後期高齢者・年金に関わる仕事をしています。八峰町役場では他にはない新しい取り組みを数多く行っており、特にサーモンの養殖事業に心を惹かれて入職しました。この職場は窓口対応があることから、来ていただいた方々に失礼がないよう、丁寧な言葉遣いでハキハキと話すことが大切です。これをしっかりできるように日頃から積極的に電話を取り、コミュニケーション力を高める努力をしています。また、町民の皆さんの大切な情報を取り扱っていますから、ミスは絶対に許されません。上司からも「分からないことはどんどん聞くように」と言われているため、分からないことがあった時は自分一人で解決せず、上司にすぐ確認するよう心がけています。函館大学は学生と教員の距離が近いだけでなく、就職活動の相談に乗ってくれる方がたくさんおり、とても心強い大学でした。皆さんも本当にやりたいことがあるならば、周りが何と言おうと絶対に挑戦したほうが良いと思います。私も忙しい人や困っている人に手を差し伸べられる視野の広い社会人を目標に、「担当があなたで良かった」と町民の皆さんに思ってもらえる存在となれるよう頑張っていきたいです。

## 授業 ピックアップ

講義や実習を通して様々な学びができる函館大学。

今回ご紹介する『政治学』は、実は身近なものである政治について、批判的な視点から考察する力が身につけられる講義です。

## 『政治学』 鈴木 知花 准教授

共生の学問としての『政治学』は、  
定めるべきルールを追究する学問



政治学は1～4年生が履修できる教養の選択科目に位置づけられています。全学年が履修できることもあって、毎年数多くの学生(本年度は93名)が政治学を受講しています。政治学と聞くと、難しい・取っ付きにくいなどの印象を持たれることが多々あります。また、多くの受講生にとって、そもそも「政治」という現象自体どこか遠くの出来事なのかもしれません。しかし、実際には「政治」は私たち皆が様々な形で関わりを持つ大変身近なものと言えます。まずは、この授業を通してそのような認識を持ち、最終的には政治が現実世界においてどのように機能しているのか、もしくはしていないのか、それを批判的な視点から考察する力を身につけることを目指します。具体的には、前半で政治学の基礎となる理論(例えば、正義論)や概念(自由や平等など)を学び、後半では現実世界における政治(例えば、選挙や政党・議会制度など)の分析を通して、その課題点・問題点を浮き彫りにします。

突き詰めていくと政治学とは、社会における共生についての学問だと言えます。政治学の端緒を開いたとも言える古代の思想家であるプラトンの『国家』やアリストテレスの『政治学』を紐解いていくと、彼らが生きた紀元前の時代から、自分とは異なる他者とひとつの政治体(社会)において、いかに共生して

いくのかという問いが絶えずあったことが分かります。このような問いは、グローバル化などによって社会の多様化が進む現代にも通底するものであり、20世紀最大の政治思想家のひとりであるジョン・ロールズはその著書『正義論』において、多種多様な人びとで構成される社会が誰にとっても公正なものであるためには、社会はある一定のルール(原理)に従うべきだと主張しています。そのルールのなかでも最も有名なのが「格差原理」と呼ばれるものであり、これは社会における不平等は、それが最も恵まれない人びとにとって最大の利益になる場合にのみ認められるものである(つまり、そうでない場合は、不平等は認められない)ことを規定しています。

このように、共生の学問としての政治学は、決して私たちの範疇を超えたものではありません。むしろ日常生活において、私たちが自分とは異なる他者と一緒に暮らしていくためには、どのようなルールを定めるべきな



のかを追究する学問であり、受講生の皆さんにも深く関わりあうものであることを授業を通じて自覚してもらいたいと思います。

## 令和6年度 公開講座

本学では地域社会との交流や教育の還元を図るため、さまざまな公開講座を行っています。

### 前期(1回)

7月27日(土) 13:30~15:30

### 「貨幣が語るウクライナの歴史」

講師: 安木 新一郎 教授

ロシアのプーチン大統領は、ウクライナはロシアの一部にすぎないと言います。ロシアでは戦争遂行にとって都合のいい歴史の捏造や歪曲が行われてきました。この授業では、貨幣考古学の成果から、ウクライナの人々がどのような貨幣を作ってきたのかを見ます。科学的知見に基づいてウクライナとロシアの関係について学びます。

### 後期(2回)

①10月19日(土) 10:00~12:00

### 「革新的技術(innovative technology)の市場参入

～音の再現性に挑むオーディオ開発者T氏の事例から～ 講師: 高橋 伸二 教授

イノベーター達にとって革新的技術を市場参入させるにあたってどのような苦労があるのでしょうか。実際にオーディオ装置の開発に取り組んできたT氏の事例を取り上げ、革新的技術の市場参入にはどのようなハードルやコンフリクトがあるのかを検証します。

②11月23日(土) 10:00~12:00

### 「若年就業者の組織定着について」

講師: 中島 智子 准教授

本講座では、若年層の早期離職問題について取り上げます。少子高齢化の進展に伴い、若年層に対する企業の採用意欲は高い状態が続いています。その一方で、厚生労働省によれば、新規卒卒者の3年以内の離職率は、高卒・大卒とも3割を超えています。不本意な早期離職は、離職者本人はもちろん、企業にとってもますます重要な問題となっているのです。このような背景に基づき、本講座では、若年層の早期離職に関する組織行動論や人的資源管理論の知見をご紹介します。